

令和4年度 採材検討会

福島森林管理署



～採材検討会の目的～

1. 生産される木材のうち、低質材の割合を極力抑え、一般材の生産向上につなげること
2. 市況の動向等を踏まえ、需要者のニーズに対応した木材供給を検討すること
3. 発注者・生産者・需要者間の適切な採材方法・採材順位について共通の認識を持つこと

実施日：令和4年9月29日（木）

場 所：福島市 鷲倉山国有林37ね6林小班

採材検討会 次第

1	集合	9 : 30		
2	開会	10 : 00	～	10 : 01
3	署長あいさつ	10 : 02	～	10 : 05
4	素材生産事業地概要説明	10 : 05	～	10 : 10
5	採材基準説明・採材検討説明	10 : 10	～	10 : 30
6	班別採材検討	10 : 30	～	11 : 05
7	採材結果の総括	11 : 05	～	11 : 20
8	検証（造材）	11 : 20	～	11 : 30
9	買受者コメント	11 : 30	～	11 : 45
10	質疑応答・意見交換等	11 : 45	～	11 : 55
11	講評	11 : 55	～	12 : 00
12	閉会	12 : 00		



事業地の概要

■ 事業名

土湯地区森林環境保全整備事業（保育間伐活用型外）
【R3補正翌債】

■ 請負事業体

有限会社武田林産

■ 事業箇所

福島県福島市土湯温泉町字鷲倉山国有林3632林小班外

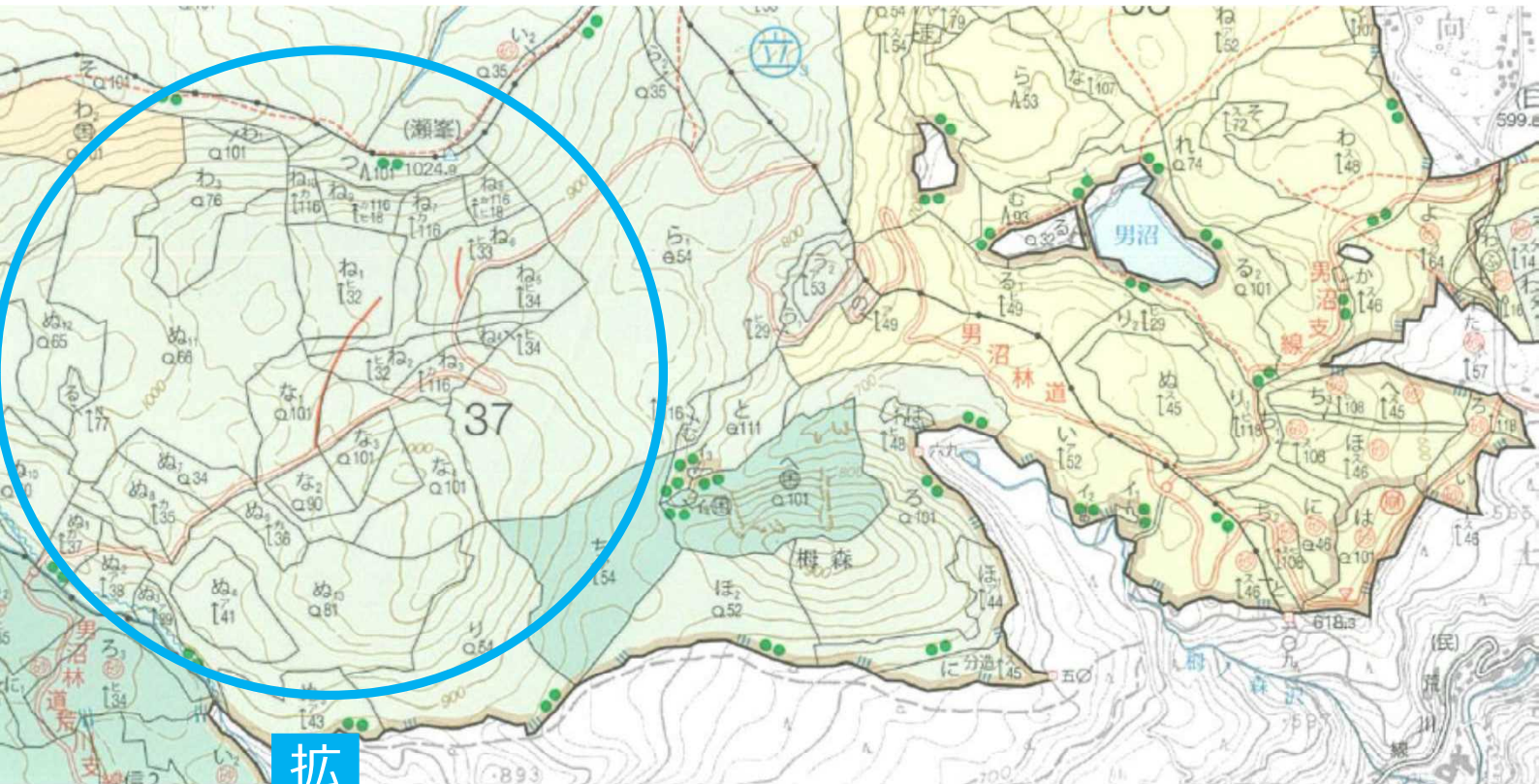
■ 事業概要

事業区分	保育間伐（活用型）	保育間伐（存置型）
契約面積	34.68ha	12.98ha
伐採量	4,422m ³	1,228m ³
生産量	2,730m ³	—
傾斜	概ね20度以下	概ね20度以下
伐採方法	列状間伐（2伐4残）	定性間伐

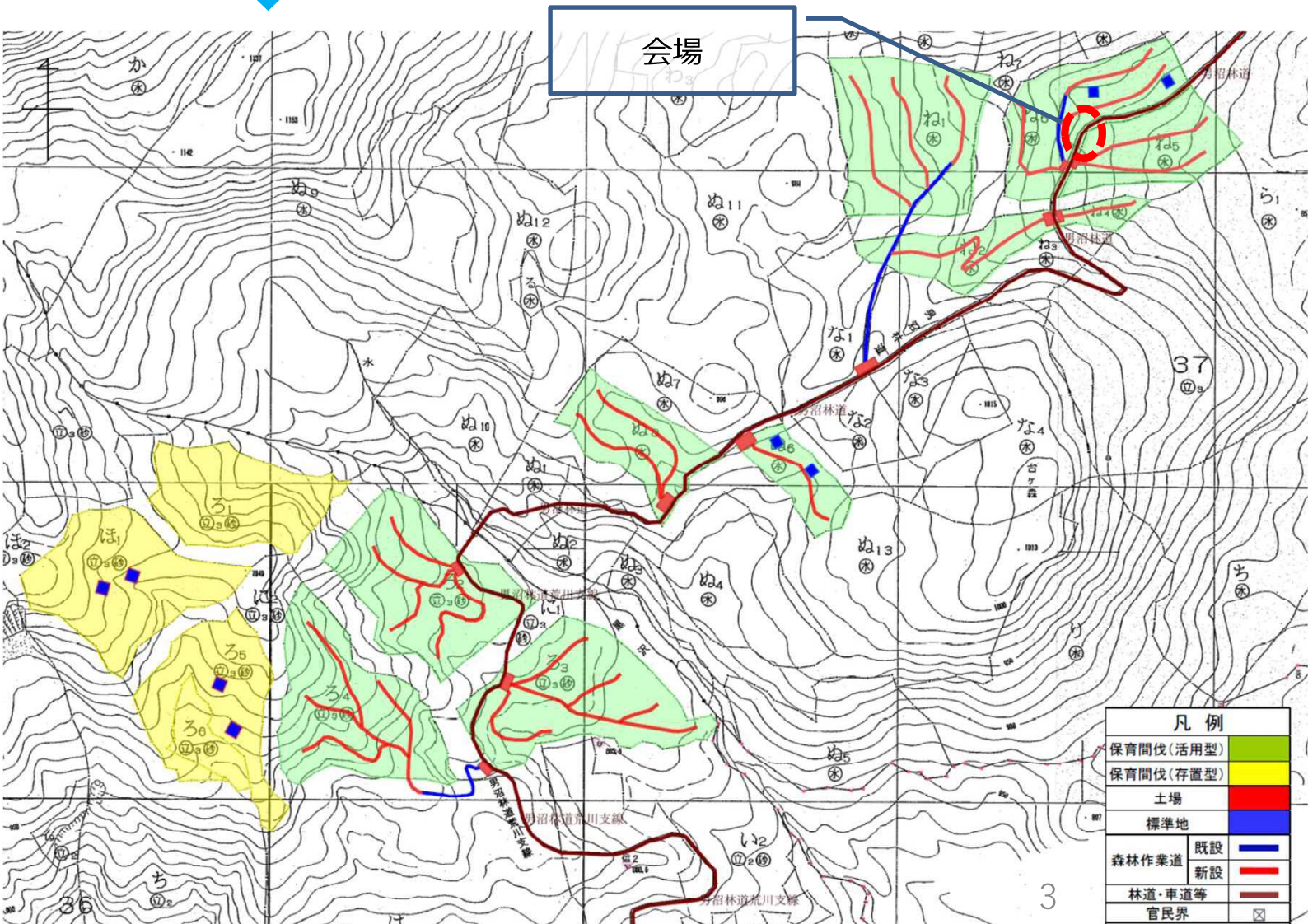
■ 樹木詳細

樹種	ヒノキ、カラマツほか
林齢	概ね37年生
平均樹高	14m
平均胸高直径	18cm
品質割合	一般材60%、低質材40%

事業地の概要 (位置図)



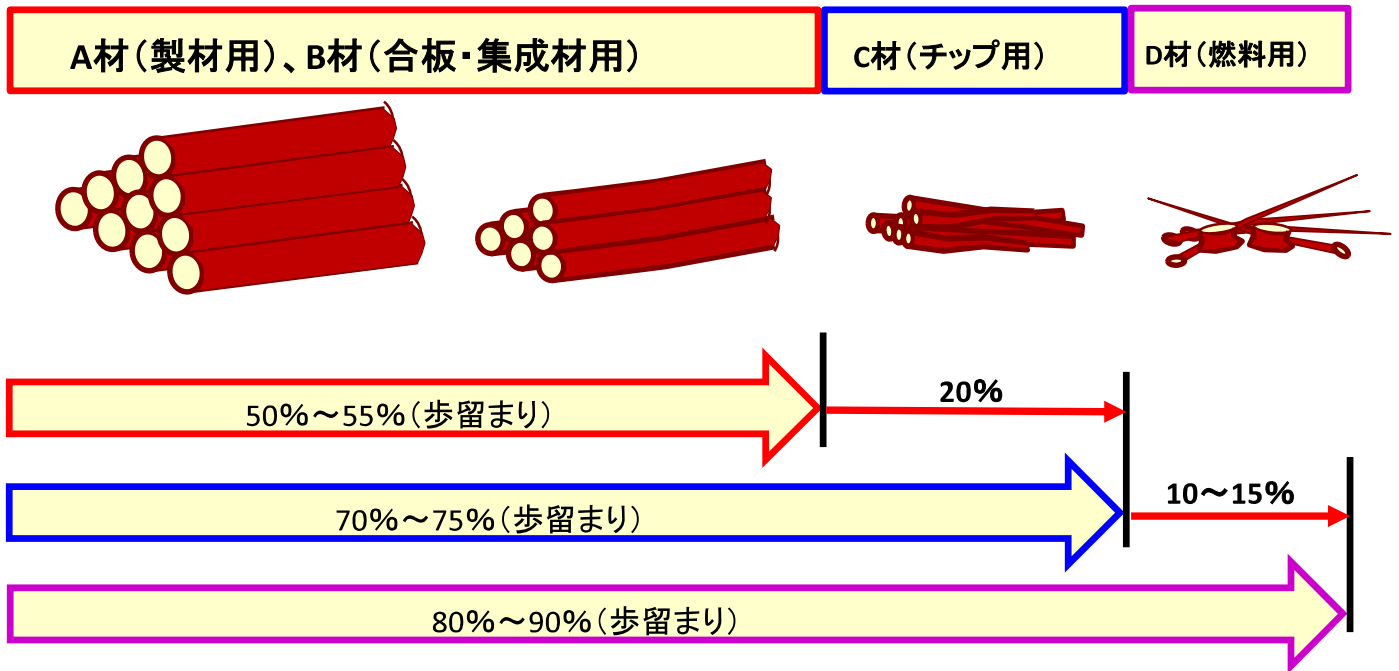
拡大



採材と歩留まりの関係

平均的な歩留まりは、A材、B材、C材を含めて70%～75%程度、D材を含めると80%～90%まで向上できる。

採材の精度を高めつつ、一般材の歩留まりを上げて、低質材・短尺材割合を引き下げる意識を持ち、需要に応えた販売に繋げる。



曲がり材の許容範囲を地域で共有

検討会等で発注者・生産者・需要者間で目あわせを行うことが重要

関東森林管理局におけるA材の採材目安

【A材】 スギ

長級 (m)	材種	径級 (cm)	矢高 (cm)
3	柱適材	16-18	1
		20-22	1.5
	一般材	24-28	
		30上	
4	一般材	24-28	2
		30上	2.5

【A材】 ヒノキ

長級 (m)	材種	径級 (cm)	矢高 (cm)
3	柱適材	16-18	1
		20-22	1.5
	一般材	24-28	
		30上	
4	一般材	24-28	2
		30上	2.5

【A材】 カラマツ

長級 (m)	材種	径級 (cm)	矢高 (cm)
3	一般材	16-22	1
		24-28	1.5
		30上	
4	一般材	24-28	3
		30上	3

※直材の指標となる矢高は、局内の平均的な数値を示したものです。

一般材の歩留まりを下げる要因ー曲がり



★矢高が適正範囲でも・・・

下図のような場合、規格外になります。

急な曲がりがあると製品をとれないためです。



根曲がり部分などは、端尺として落としましょう。

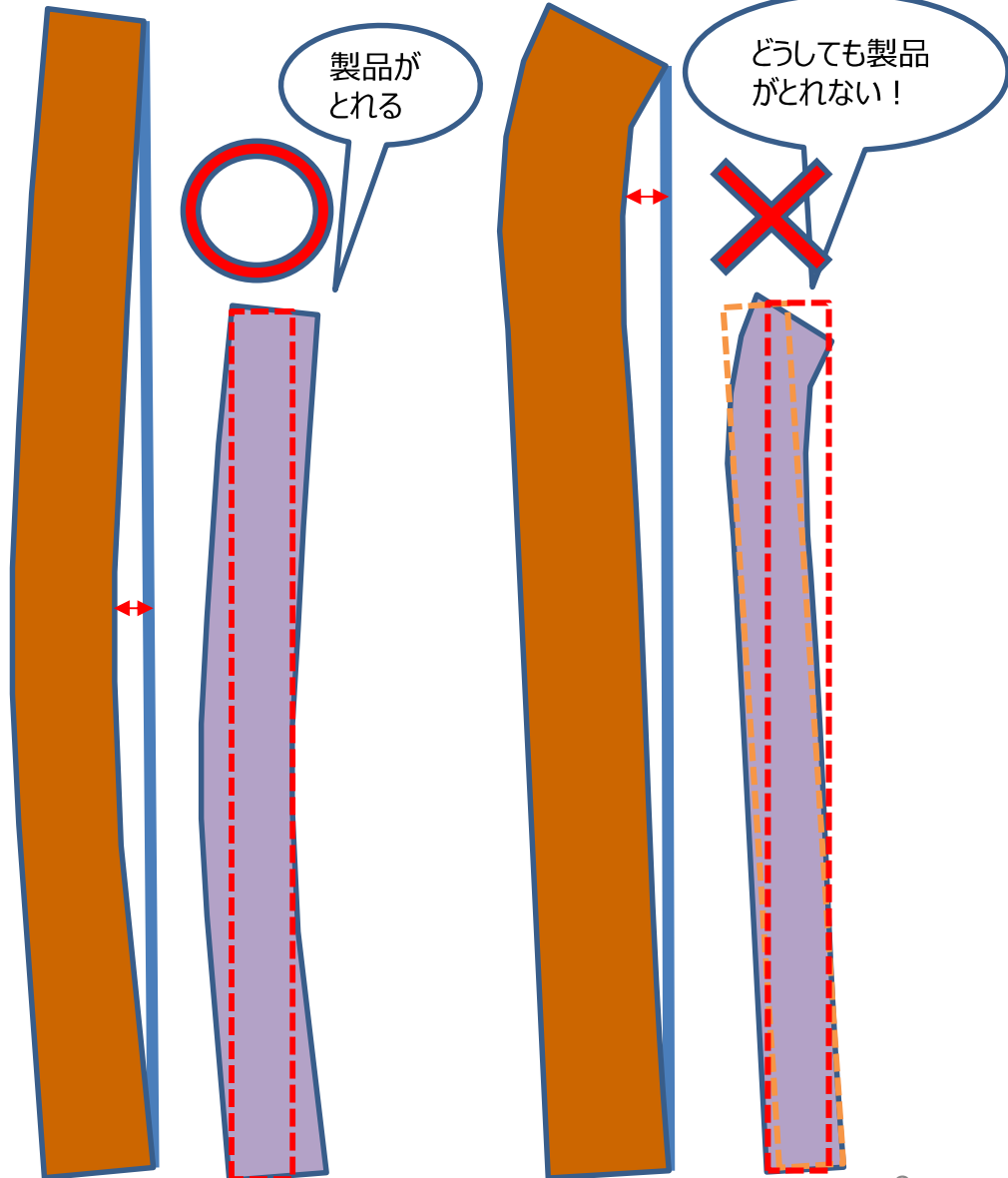
矢高が

A.中心

(緩やかに曲がる)

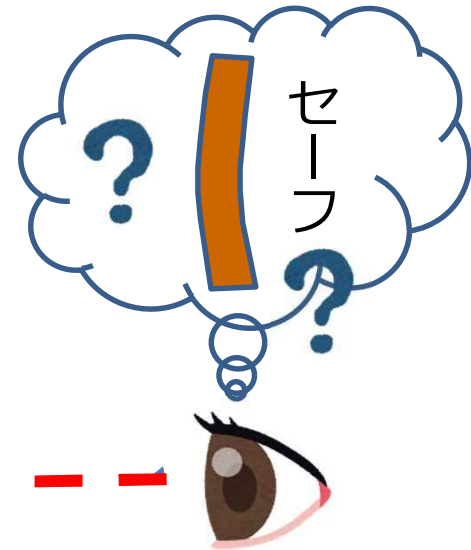
B.片方にかたよる

(急に曲がる)



一般材の歩留まりを下げる要因ー二曲がり

別名：重曲、へび曲、S字など



二曲がりは、即アウト！

二曲がりは、見る方向によっては一曲がりに見えてしまいます。



必ず別の方向からも見て確認しましょう。

一般材の歩留まりを下げる要因－木口割れ



木口割れは、作業動作の改善、目立
て等で限りなくゼロにできます！

補 足
作業の改善で限りなくゼロにできる
ものに、ほかには「寸足らず」がありま
す。

一般材の歩留まりを下げる要因－腐れ・キズ



間伐時のキズ

腐れ・キズ・シミが発生する要因はいくつかあるが、間伐作業時のキズは減らすことができる。



数年後……



有利採材を徹底しよう！

— 立木の価値を上げる採材の徹底 —

◎採材の基本（造材寸法書の徹底）

造材寸法書に定められた採材順位で採材する。安易にC材を採材しない。

ポイント

- 需要動向や価格を考慮して採材順位を設定。採材順位を遵守することで有利採材に繋げる。
- 常にニーズを把握し採材に繋げる。
- 全幹材（一本の丸太）を無駄なく使い切る。使用できない箇所は切り捨てる。

◎採材による価格の変動例

スギ、胸高直径：24cm、材長：17m

凡例:	木材価格(円)	単材積(m3)	径級(cm)×長級(m)	比較合計					
	22,000	0.194	22×4						
	22,000	0.123	18×4						
	9,100	0.059	14×3						
	9,100	0.058	12×4						
		0.03	10×2低質	0.434m3					
	4,268円	2,706円	537円	528円	171円	8,210円			
	5,700	0.115	24×2低質						
	22,000	0.160	20×4						
	22,000	0.077	16×3						
	9,100	0.068	13×4						
		0.04	10×4	0.460m3					
	656円	3,520円	1,694円	619円	364円	6,852円			
	5,700	0.115	24×2低質						
	5,700	0.098	22×2低質						
		0.08	20×2低質						
		0.065	18×2低質						
		0.051	16×2低質						
		0.039	14×2低質						
		0.03	12×2低質						
		0.03	10×2低質	0.508m3					
	656円	559円	456円	371円	291円	222円	171円	171円	2,896円
低質材N:	5,700								

